第二講・文学的文章②

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

買い足した回数券の三冊目が――もうすぐ終わる。

少年は父に「迎えに来て」とねだるようになった。車で通勤している父に、会社帰りに病院に寄ってもらって一緒に帰れば、回数券を使わずにすむ。

「今日は残業で遅くなるんだけどな」と父が言っても、「いい、待ってるから」とねばった。母から看護師さんに頼んでもらって、面会時間の過ぎたあとも病室で父を待つ日もあった。

それでも、行きのバスで回数券は一枚ずつ減っていく。最後から二枚目の回数券を――今日、使った。あとは表紙を兼ねた十一枚目の券だけだ。

①明日からお小遣いでバスに乗ることにした。毎月のお小遣いは千円だから、あとしばらくはだいじょうぶだろう。

ところが、迎えに来てくれるはずの父から、病院のナースステーションに電話が入った。

「今日はどうしても抜けられない仕事が入っちゃったから、一人でバスで帰って、って」

看護師さんから伝言を聞くと、泣きだしそうになってしまった。今日は財布を持って来ていない。回数券を使わなければ、家に帰れない。

母の前では涙をこらえた。病院前のバス停のベンチに座っているときも、必死に唇を噛んで我慢した。でも、バスに乗り込み、最初は混み合っていた車内が少しずつ空いてくると、急に悲しみが胸に込み上げてきた。シートに座る。②窓から見えるきれいな真ん丸の月が、じわじわとにじみ、揺れはじめた。座ったままうずくまるような格好で泣いた。バ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

スの重いエンジンの音に紛らせて、うめき声を漏らしながら泣きじゃくった。

『本町一丁目』が近づいてきた。顔を上げると、車内には他の客は誰もいなかった。降車ボタンを押して、*1手の甲で涙をぬぐいながら席を立ち、ウインドブレーカーのポケットから回数券の最後の一枚を取り出した。

バスが停まる。運賃箱の前まで来ると、運転手が河野さんだと気づいた。それでまた、悲しみがつのった。こんなひとに最後の回数券を渡したくない。

整理券を運賃箱に先に入れ、回数券をつづけて入れようとしたとき、とうとう泣き声が出てしまった。

「どうした？」と河野さんが訊いた。「なんで泣いてるの？」――ぶっきらぼうではない言い方をされたのは初めてだったから、逆に涙が止まらなくなってしまった。

「財布、落としちゃったのか？」

泣きながら*2かぶりを振って、回数券を見せた。

じゃあ早く入れなさい――とは、言われなかった。

河野さんは「どうした？」ともう一度訊いた。

その声にすうっと手を引かれるように、③少年は*3嗚咽交じりに、回数券を使いたくないんだと伝えた。母のこともしゃべった。新しい回数券を買うと、そのぶん、母の退院の日が遠ざかってしまう。ごめんなさい、ごめんなさい、と手の甲で目元を覆った。警察に捕まってもいいから、この回数券、ぼくにください、と言った。

④河野さんはなにも言わなかった。かわりに、小銭が運賃箱に落ちる音が聞こえた。目元から手の甲をはずすと、整理券と一緒に百二十円、箱に入っていた。もう前に向き直っていた河野さんは、少年を振り向かずに、「早く降りて」と言った。「次のバス停でお客さんが待ってるんだから、早く」――声はまた、ぶっきらぼうになっていた。

（重松清『バスに乗って』）

*1手の甲＝手のひらの反対側で、指のつけ根から手首までの部分。

*2かぶり＝頭。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

＊３嗚咽＝声をつまらせて泣くこと。

問一　――線①「明日からお小遣いでバスに乗ることにした」とありますが、なぜ、少年は最後（十一枚目）の回数券を使いたくないのですか。

問二　――線②「窓から見えるきれいな真ん丸の月が、じわじわとにじみ、揺れはじめた」は、どんな様子を表現したものですか。もっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　雨がぽつぽつとふり出した様子

イ　バスが揺れながら走っている様子

ウ　少年の目に涙がだんだんとたまってきた様子

エ　きれいな月に雲が少しずつかかりはじめた様子

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　――線③「少年は嗚咽交じりに、回数券を使いたくないんだと伝えた」について、次の⑴・⑵に答えなさい。

⑴　少年が回数券を使いたくない理由を河野さんに話したのはなぜですか。もっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　正直に話さないと、河野さんにおこられると思ったから。

イ　正直に話せば、回数券を出さなくてすむと思ったから。

ウ　河野さんは顔なじみなので、わかってくれると思ったから。

エ　河野さんが初めてぶっきらぼうではない言い方で声をかけてくれたから。

□

⑵　回数券を使いたくない理由を少年から聞いた河野さんは、どうしましたか。

□

問四　――線④「河野さんはなにも言わなかった」とありますが、このときの河野さんの気持ちを説明したものとしてもっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　入院中の母親に早く治ってほしいと願っている少年の気持ちを理解した。

イ　少年のことばや様子におどろいて、どうしたらよいのかわからなかった。

ウ　バスに乗ったのだから、回数券を運賃箱に入れて、早くバスを降りてほしいと思った。

エ　バスに乗ったにもかかわらず、回数券を出そうとしない少年にはらが立った。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　**次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

次の日から、少年はお小遣いでバスに乗った。お金がなくなるか「回数券まだあるのか？」と父に訊かれるまでは知らん顔しているつもりだったが、①その心配は要らなかった。

三日目に病室に入ると、母はベッドに起き上がって、父と笑いながらしゃべっていた。会社を抜けてきたという父は、少年を振り向いてうれしそうに言った。

「お母さん、あさって退院だぞ」

退院の日、母は看護師さんから花束をもらった。車で少年と一緒に迎えに来た父も、「どうせ家に帰るのに」と母に笑われながら、大きな花束をプレゼントした。

帰り道、「ぼく、バスで帰っていい？」と訊くと、両親は②きょとんとした顔になったが、「病院からバスに乗るのもこれで最後だもんなあ」「よくがんばったよね、寂しかったでしょ？　ありがとう」と笑って許してくれた。

「帰り、ひょっとしたら、ちょっと遅くなるかもしれないけど、いい？　いいでしょ？　ね、いいでしょ？」

両手で拝んで頼むと、母は「晩ごはんまでには帰ってきなさいよ」とうなずき、父は「そうだぞ、今夜はお寿司とるからな、パーティーだぞ」と笑った。

バス停に立って、河野さんの運転するバスが来るのを待った。バスが停まると、降り口のドアに駆け寄って、その場でジャンプしながら運転席の様子を確かめる。

③何便もやり過ごして、陽が暮れてきて、やっぱりだめかなあ、とあきらめかけた頃——やっと河野さんのバスが来た。間違いない。運転席にいるのは確かに河野さんだ。

車内は混み合っていたので、走っているときに河

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

野さんに近づくことはできなかった。それでもいい。通路を歩くのはバスが停まってから。整理券は丸めてはいけない。

次は本町一丁目、本町一丁目……とアナウンス＊が聞こえると、降車(こうしゃ)ボタンを押(お)した。ゆっくりと、人(ひと)差(さ)し指をピンと伸(の)ばして。

バスが停まる。通路を進む。河野さんはいつものように不機嫌(ふきげん)な様子で運賃箱(うんちんばこ)を横目で見ていた。目は合わない。それがちょっと残念(ざんねん)で、でも河野さんはいつもこうなんだもんな、と思い直して、整理券と回数券の最後の一枚(まい)を入れた。

降りるときには早くしなければいけない。順番を待っているひともいるし、次のバス停で待っているひともいる。

だから、④少年はなにも言わない。回数券に書いた「ありがとうございました」にあとで気づいてくれるかな、気づいてくれるといいな、と思いながら、ステップを下りた。

バスが走り去ったあと、空を見上げた。西のほうに陽が残っていた。どこかから聞こえる「ごはんできたよお」のお母さんの声に応(こた)えるように、少年は歩きだす。

⑤何歩か進んで振り向くと、車内灯(しゃないとう)の明かりがついたバスが通りの先に小さく見えた。やがてバスは交差点をゆっくりと曲がって、消えた。

（重松清(しげまつきよし)『バスに乗って』）

＊アナウンス＝知らせること。放送。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　――線①「その心配は要らなかった」とありますが、少年がバス代や回数券の心配をする必要がなくなったのは、なぜですか。

問二　――線②「きょとんとした顔」とは、どんな顔ですか。もっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　おどろいた顔　　**イ**　楽しそうな顔

ウ　残念そうな顔　　**エ**　おこった顔

問三　――線③「何便もやり過ごして」とありますが、少年がバスを何便もやり過ごしたのはなぜですか。

問四　少年は、一人でバスに乗るようになってから、バスを乗り降りするときのマナーを学びました。少年が学んだ、バスを乗り降りするときのマナーが書かれている文を文中から三つさがし、書きぬきなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五 ——線④「少年はなにも言わない」とありますが、少年が河野さんにお礼を言わなかったのは、なぜですか。もっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 回数券に「ありがとうございました」と書いたので、もう十分お礼を伝えたと思ったから。

イ 口で言うよりも、回数券に「ありがとうございました」と書いたほうが、はっきり気持ちが伝わると思ったから。

ウ 早く降りないと、他(ほか)のお客さんや河野さんにめいわくをかけてしまうから。

エ いつものように不機嫌な様子の河野さんを見て、声をかける勇気(ゆうき)がなくなったから。

問六 ——線⑤「何歩か進んで振り向くと……ゆっくりと曲がって、消えた」とありますが、このときの少年の気持ちとしてもっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア バスの中で河野さんと目が合わず、お礼を口で言えなかったことを残念に思う気持ち

イ 河野さんに自分なりにお礼を伝えることができて、満足(まんぞく)した気持ち

ウ もう河野さんにおこられることもないと思い、すっきりした気持ち

エ 家に帰るのが遅くなってしまい、親におこられるかもしれないと心配する気持ち

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　文学的文章②

一題目

問一　(例)最後の回数券を使って、新しい回数券を買うと、そのぶん、母の退院の日が遠ざかってしまうと思っていたから。

問二　ウ

問三　(1)　エ

(2)　(例)少年のかわりに、バス代をはらった。

問四　ア

二題目

問一　(例)母が退院することになったから。

問二　ア

問三　(例)バスの運転手が河野さんではなかったから。

問四　通路を歩くのはバスが停まってから。

整理券は丸めてはいけない。

降りるときには早くしなければいけない。　(順不同)

問五　ウ

問六　イ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。